

英語でのやり取りを重視する指導

東京都立杉並高等学校

【TGG利用に関する基本情報】

利用日	令和元年7月12日(金) 11月13日(水)
利用学年・参加人数	第1学年・ 316人
利用コース	半日(セッション2-3)を2日間 ランチプログラム利用(有)
利用級	中級
教育課程上の位置付け	学校行事
利用プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> アトラクション・エリア <input checked="" type="checkbox"/> アクティブイマージョン・エリア



○本校における英語教育・国際理解教育について

本校は、次のような英語教育・国際理解教育の取り組みをおこなってきた。

平成28年度から：イングリッシュ・キャンプの実施、スカイプによる交流活動(姉妹校交流推進校)教育課程変更(英語の増単位・習熟度別授業)、英語教員定数増

平成29年度から：ニュージーランド、台湾の高校と姉妹校締結、本校生徒のNZ語学研修の実施と姉妹校生徒の短期留学受入れ(姉妹校交流推進校)

平成30年度から：台湾修学旅行の実施、TGG利用(2学年半日1回、1学年半日2回)国際交流リーディング校に指定される。オンラインスピーキング・トレーニングの試行実施。東京体験スクール、日台サミットへの参加。

平成31・令和元年度から：英語教育推進校に指定される。JET青年の2名配置。英語教育の校内研修の実施、タイ文化研修の実施、姉妹校と2カ月程度の交換留学の実施を検討。台湾修学旅行の充実と新たな姉妹校

○利用日当日の行程



○事前学習や事後学習について

LHR等でのTGG参加の準備と指導、「コミュニケーション英語I」での事前学習、「コミュニケーション英語I」での振り返り学習

○児童・生徒の変容について

廊下や職員室など教室や授業以外で、JET-ALTと話しをする生徒の姿が増えた。外国人と会話することに、心理的な抵抗がなくなったと思われる。

○本校のTGG利用の特徴について

本校は、授業や行事的活動の中で英語での「やり取り」活動ができる機会を、数多く設定してきた。その中で外国人との英語でのやり取りができる機会としては、NZ姉妹校での語学研修、イングリッシュキャンプ、スカイプによる交流活動、オンラインスピーキングトレーニング(OST)は、希望者対象である。TGGは、320名の生徒が、1名のネイティブスピーカーに対し8名の生徒という環境の下、一定のテーマに基づいた英語でのやり取りができることから、TGGでの学習を1年時に2回設定することで、1回目の経験を2回目に生かせるように工夫している。現在、1回のTGG活動は2つのセッションで実施しているが、3つのセッションとすることを考えている。

全員対象の外国人との英語でのやり取りを、将来的には1年時ではTGGを柱に、2年時はOSTで高めていくことを考えている。

「TGG参加に向けての取り組み」

東京都立第五商業高等学校

【TGG利用に関する基本情報】

利用日	令和元年6月13日(木)
利用学年・参加人数	第2学年・209人
利用コース	一日 ランチプログラム利用(無)
利用級	中級
教育課程上の位置付け	学校行事
利用プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> アトラクション・エリア <input checked="" type="checkbox"/> アクティブイマージョン・エリア



○本校における英語教育・国際理解教育について

1学年、2学年の「コミュニケーション英語」の授業で習熟度に応じてクラスを展開し、週1時間程度ALTもしくはJETとのTTで授業を行っている。3学年ではクラス単位で2週間に1回程度ALTとTTを行っている。

2学年「英語表現」の中では2週間に1度JETとのTTを行いながら、いろいろなテーマでスピーチを作成して発表するという授業を行っている。

○利用日当日の行程



○事前学習や事後学習について

1学年3学期に「コミュニケーション英語I」において、TGGから事前にいただける冊子『Prep Book TGG 準備ブック』をもとにいくつかの英語表現をまとめた副教材を作成し、それを用いて英語会話表現の事前指導(ALTとTT)を行った。

2学年1学期にビジネス科科目「ビジネスアイデア」において、マーケティングや企業分析の概要についてスライド等を用いて事前に学習した。

○児童・生徒の変容について

TGGへ参加する前は、多くの生徒が緊張し、参加することを不安に思っていたようだが、当日はほとんどの生徒が生き生きと活動に臨んでおり、充実した一日を過ごしたようである。

参加後は、授業内外でALTやJETとの英語での会話に積極的になった生徒が増えたように感じられる。

○本校のTGG利用の特徴について

本校生徒にとっては、TGGに参加することで日常生活における英語でのコミュニケーションを体験するだけでなく、アクティブイマージョン・エリアのプログラムを通じて、ビジネス科における学習内容を英語で学ぶという体験もすることができた。

英語のみならず、今後の学校生活における様々な学びへのよい動機づけとなったと思われる。

【TGG利用に関する基本情報】

利用日	令和元年7月16日(火)、17日(水)
利用学年・参加人数	高校第1学年・142人
利用コース	半日コース+1日コース(計2日)、 ランチ利用有
利用級	中級
教育課程上の位置付け	海外研修(カナダ)の事前学習
利用プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> アトラクション・エリア(エアポート) <input checked="" type="checkbox"/> アクティブイマージョン・エリア



○本校における英語教育・国際理解教育について

本校は教育理念「Think & Share」を掲げ、“自立心にあふれ、知性を高めていく人”・“喜びを、多くの人と分かち合える人”・“地球的な視野に立って、積極的に行動する人”を育成することをめざしている。そのためには異なる文化や考え方の違いを理解し、グローバルな視点と能力を育てたいと考え、高校1年生にてカナダ英語研修(約10日間)を全員必修としている。他にも、中学2年生でニュージーランド研修、中学3年生でシンガポール文化研修や国内のインターナショナル・スクールとの交流、高校1年生でニュージーランド派遣留学といった希望制のプログラムがある。これらの経験を通じて、違いを認め合って思いやりの心をもつ人材の育成を実践している。

○利用日当日の行程

初日(半日コース) TGG 集合(11:40)― 昼食(弁当)― TGGにて解散
2日目(1日コース) TGG 集合(8:15)― 昼食(弁当)― TGGにて解散

○事前学習や事後学習について

高校1年生必修のカナダ英語研修の事前学習として、希望制英会話講座という名目でTGGを利用した。飛行機内、空港、ホームステイなどで想定される英会話を、実践的な方法で学ぶ機会とした。なお、本校では中学1年生から高校1年生まで週に1コマ英会話(チーム・ティーチング)を授業に取り入れているが、TGGにおける“ニュース番組を作ろう”や“プログラミング”といった、学校では用意できない設備と少人数制英会話指導はTGGならではのものであり、かつ我々英語教員も学ぶべき“楽しく英語を学ぶ”テクニックにTGGは長けていると感じた。

○生徒の変容について

本校は男子校であるが、男子は英会話に消極的な場合がよく見受けられる。しかし、TGG利用後のアンケートでは90パーセントの生徒が満足したと答えており、実際にカナダ現地でも、例年より積極的にネイティブに接しようとする生徒が多いように感じられた。

○本校のTGG利用の特徴について



本校では中学1年生の希望者を対象に12月にTGGを利用する。高校1年生の満足度の高さから、中学低学年にとっても英語学習意欲を高めるきっかけになるであろうと確信している。来年度は高校1年生で全員必修とすることを検討中である。